

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 22 日現在

機関番号：38002

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23610004

研究課題名(和文) 市民社会は児童問題の解決にいかに関与できるか

研究課題名(英文) Role of the civil society in resolving children related problems

研究代表者

吉井 美知子 (YOSHII, MICHIKO)

沖縄大学・人文学部・教授

研究者番号：30535159

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：ベトナム市民社会が、政府からの活動抑制を受けながらもストリートチルドレン問題の解決に一定の貢献をしていることを明らかにした。また、日本の市民社会が児童虐待を防止する上でベトナムから学ぶべきことを提言した。原発事故を受けて、放射能からの子どもの保護についても市民社会の貢献を明らかにするとともに、日越の市民社会がフランスの市民社会から学ぶべきことを提示した。

四ヶ国語で研究成果を発信、ベトナム語での発表がベトナムで大きなインパクトを得たことが特筆される。ベトナム市民もともに、本科研費の支給に対し、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

研究成果の概要(英文)：I showed how the civil society in Vietnam contributed in resolving the problem of street children even under a pressure of government. I also made a recommendation how the civil society in Japan, facing to the problem of child abuse, should learn from Vietnam's experience. After Fukushima nuclear disaster, I also demonstrated how the civil society was contributing to child protection from radiation. Finally, I exposed what to learn from French civil society.

Results of the research were communicated in 4 languages, in which the biggest impact was obtained from Vietnam in Vietnamese language. I hereby express my sincere thanks to this grant, together with Vietnamese citizens who benefited it.

研究分野：市民社会研究、ベトナム地域研究、国際協力学、児童福祉学

キーワード：子ども 保護 市民社会 ベトナム ストリートチルドレン 児童虐待 放射能 フランス

1. 研究開始当初の背景

ベトナムでは急激な経済発展に伴い、貧富の格差や都市スラムの拡大、ストリートチルドレン(SC)の増加などの新たな社会問題が発生している。問題意識を持った市民が解決のために立ち上がり、集会・結社の自由が制限される社会主義国で政府から強い抑制を受けながらも活動を続けている。

一方、自由な先進国日本では、路上ではなく家庭、施設、学校等の一般市民の目から隠れた場所で育児放棄、子ども虐待、いじめ等、数々の児童問題が起こっている。また本科学研究費の申請後、研究開始直前には3.11 原発震災が起こり、放射能からの子どもの保護という新たな児童問題も生じた。自由に活動できるはずの日本の市民社会の関与はどうなっているのか。当局からの抑制を覚悟で市民が立ち上がっているベトナムから学ぶことはないか。

ベトナムでは初の原発建設が計画されている。福島原発事故を受けてベトナムの市民社会は、子どもたちをいかに放射能から保護していくべきか。そして福島の子どもの保護に当たる日本の市民社会から学ぶべきことは何か。

本科学研究費研究は筆者が上のような問題意識を持ったことから開始に至った。

2. 研究の目的

本研究は以下の4点を明らかにすることを目的として取り掛かった。研究費申請時と研究開始までの間に3.11 原発震災という、日本社会を根底から揺さぶる大事件があった。そのため科研費申請時の当初計画から、目的の一部が変更となっていることに留意されたい。

- (1) ベトナムの市民社会は政府のSC政策をいかに変化させたか。
- (2) 日本の市民社会は子ども虐待にどのように対処しているか。ベトナムの市民社会から学ぶべきことは何か。
- (3) 日本の市民社会は、福島原発事故を受けてどのように放射能から子どもを保護する活動を行っているか。
- (4) フランスの市民社会から、日本やベトナムの市民社会は何を学べるか。

3. 研究の方法

(1) フィールド調査 (ベトナム)

2011年9月11日 - 20日

2012年2月21日 - 29日

以上2回に渡りホーチミン市にてフィールド調査を実施、政府関係者への聴き取り、政府系児童保護施設の訪問調査、NGOの施設訪問調査、ケア児童の自宅訪問と聴き取り、路上での子どもからの聴き取り調査を実施した。また現地にて関連の法律文書、統計資料等のデータを入手した。

(2) フィールド調査 (大阪)

2011年7月 - 2012年1月 : 7回

2012年4月 - 11月 : 2回

以上9回に渡り大阪にてフィールド調査を実施、児童相談所、児童養護施設、NGOの児童保護施設の訪問、見学、およびその関係者からの聴き取り調査を行った。このうち2011年度分のフィールド調査および関連の研究会、セミナー、学会参加について表1にまとめる。

表1 子ども虐待にかかる大阪フィールド調査訪問先 (筆者作成)

	訪問先・イベント	調査の日付	場所
1	大阪府中央子ども家庭センター	2011年9月2日	大阪府寝屋川市
2	慶徳会 子供の家	2011年9月5日	大阪府茨木市
3	神田真知子氏 (もと児童相談所長)	2011年7月25日	大阪市天王寺区
4	児童虐待防止協会 (APCA)	2011年7月1日	大阪市中央区
5	APCA 第145回 Child Abuse 研究会	2011年9月24日	同上
6	APCA 特別セミナー	2011年10月29日	同上
7	APCA 第146回 Child Abuse 研究会	2011年12月10日	同上
8	こどもの里	2011年7月1日 9月5日	大阪市西成区
9	山王こどもセンター	2011年7月25日	大阪市西成区
10	日本子ども虐待防止学会 (JaSPCAN) 第17回学術集会いばらき大会	2011年12月2日 3日	茨城県つくば市つくば国際会議場

(3) フィールド調査 (フランス)

2012年3月19日 - 24日 : 予備調査

2012年9月16日 - 27日 : 本格調査

以上の2回に分けて、フランスにおけるフィールドの予備調査および本格調査を実施した。児童保護およびケアを専門とする政府系機関およびNGO団体とその施設を見学、聴き取り調査を行った。訪問先は表2の通りである。



写真1 フランスの里親家庭にて (2012年9月)

表 2 子どもの保護にかかるフランス・フィールド調査訪問先（筆者作成）

	訪問先	正式名称・概要
1.	ODAS	Observatoire Nationale de l'Action Sociale Décentralisée（国立地方分権社会アクション研究所）国・自治体の補助金で運営されるアソシアシオン。子どもに関する政策立案・研究機関
2.	RETIS	公的資金で子どもの保護を行うアソシアシオン
3.	AEMO	Action Éducative en Milieu Ouvert（開放型教育アクション） 2. RETIS の運営する子どもの保護施設
4.	Chez Mr. et Mme. PICARD	ピカール家。2. RETIS の委託で子どもを預かる里親家庭
5.	Yves Lefèbvre	Association Yves Lefèbvre（アソシアシオン・イブ・ルフェーブル）公的資金で子どもの保護を行うアソシアシオン
6.	Centre Éducatif Fermé de Ham	アム閉鎖型教育センター。5. Yves Lefèbvre の運営する子どもの更生施設
7.	Le Moulin	ル・ムーラン（風車小屋）5. Yves Lefèbvre の運営する子どもの寄宿施設
8.	SOS Village d'Enfants	SOS 子ども村。公的資金で子どもの養護施設を運営するアソシアシオン、国際 NGO
9.	L'enfant Bleu	ランファン・ブルー（青あざのある子ども）民間資金で子ども虐待の防止活動を行うアソシアシオン
10.	Les Mères en Colère	怒れる母たち。民間資金のみで活動していた任意団体。放射能からの子どもの防護活動を行っていたがすでに解散済み

(4) フィールド調査（福島）

2012年11月2日 - 4日：予備調査

2014年3月7日 - 10日：本格調査

以上の2回に分けて、福島におけるフィールドの予備調査および本格調査を実施した。放射能からの子どもの保護を専門とする市民社会の活動を中心に、飯舘村、浪江町、南相馬市、福島市、二本松市の汚染状況を見学した。また活動家や住民からの聴き取りを実施した。

(5) フィールド調査（沖縄）

2014年7月21日 - 22日

久米島にて、福島から子どもたちを受け入れている NGO の保養施設を見学、責任者や子どもたちから聴き取り調査を行った。

(6) 文献資料の参照

日本国内のみならず、ベトナム、フランス他の国々から和文、越文、仏文、英文の資料を収集して参照した。論文、書籍、雑誌、新聞、ホームページ、DVD、ラジオ放送等の資料であり、そのうち一部は科研費にて購入した。

(7) セミナー、シンポジウム、フォーラム、講演会、研究会、学会における情報収集
研究期間の最初の3年は三重に、最後の1年は沖縄に拠点を置いたが、地元でセミナーや学会の類が開催されることは稀であった。このため科研費を利用して、積極的に首都圏や名古屋、関西方面に出かけて行き、これらの会合での情報収集、研究成果発信や研究者間の人脈づくりに利用した。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

ベトナムの市民社会は政府の SC 政策をいかに変化させたか。

市民社会の活動が厳しく制限されるなか、粛々と子どもたちのケアをすることで、

1) 「社会福祉」概念の普及とソーシャルワーカーの養成ができたこと

2) 国際的なケア技術の導入を担ったこと

3) 政府をケアの「社会化」(注：市民社会に任せること)に踏み切らせたこと

の大きく3つの貢献により SC 政策を変化させたことを明らかにした。

日本の市民社会は子ども虐待にどのように対処しているか。ベトナムの市民社会から学ぶべきことは何か。

大阪でのフィールド調査から、日本の市民社会が担う活動では人手と資金の不足が問題となっていて、団体が政府や地方自治体の補助金獲得に奔走する状況が明らかになった。このことに基づき、ベトナムでの海外ドナーに代わる資金源を確保し、より望ましいケアを行うことで政府へのアドボカシーに努力する姿勢をベトナムから学ぶべきであるという提言を行った。

日本の市民社会は、福島原発事故を受けてどのように放射能から子どもを保護する活動を行っているか。

政府や県の姿勢が放射能の被害を矮小化し、除染を優先して避難者の早期帰宅を促進する方策に偏るなか、市民社会が保養の実施、避難の権利要求のアドボカシー、市民測定所の運営、移動保育園の運営等で一定の貢献をしている状況が明らかになった。

フランスの市民社会から、日本やベトナムの市民社会は何を学べるか。

2度のフィールド調査を通し、公的資金で活動しながらも団体の独立性を維持し、堂々と政府の施策に異議を唱える団体が多いこと、運営者やスタッフの個人生活を圧迫するような滅私奉公的勤務体制が見られないことなど、成熟した市民社会の現状が明らかになった。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本研究成果は日本語、ベトナム語、フランス語、英語の四言語で国内外に向けて発信しているため、各言語別にその位置づけとインパクトについて述べる。

日本語

学術雑誌に掲載された論文等が3本、共著書1点を刊行したほか、国内の学会発表が2本、新聞・雑誌記事2本、国内講演が8本と、積極的に研究成果の発信と社会還元を努めた。これにより「ベトナム、子ども、NGO」というキーワードでは国内研究者の第一人者という位置づけがなされていると自負している。

同様のキーワードが示される研究論文には必ず引用、参照されており、学術面でのインパクトが感じられる。また講演依頼はコンスタントに入り続け、研究期間が終了した今日でも、本土の修学旅行生がわざわざベトナムの話聴きに集まるなど、教育面での社会還元が進んでいることがわかる。

ベトナム語

もっともインパクトが大きかったのがベトナム語での発表である。まず2012年11月ハノイでの学会発表で反響を得て、さらに2013年8月にシンガポールで発表した際に多くのベトナム人研究者やマスコミ関係者の共感を得た。その後、渡越するたびに講演依頼が舞い込み、国立ホーチミン市人文社会科学大学、国立経済法律大学、開放大学、トゥーザウモット大学などで次々と講演を行っている。事情により講演題目にははっきり記していないが、すべて本研究の成果が盛り込まれている。

また一般市民向けの発信としては、人気雑誌のトゥオイチェ誌に記事を掲載、多くの市民に読まれるとともに、その後ネット上に英文で書いた記事もベトナム語に翻訳されて拡散されるようになっていく。

日本在住の日本人研究者が、なぜか本国よりもベトナムで有名人になってしまったというほどのインパクトである。



写真2, 3 ベトナムでの講演会(2014年9月)

フランス語

フィールド調査時に合わせて、パリ大学にて講演を行い、好評を得た。その後も渡仏のたびに講演依頼が来ている状況である。

英語

カナダ、名古屋、沖縄の3ヶ所での国際学会に参加、英語で研究発表を行い国内外の研究者に発信を行った。それぞれ異なる分野の学会であったため、多岐にわたる分野の研究者に発信ができ、研究者間のネットワークを形成することができた。それぞれ予稿集には英文論文を掲載している。

今回英語論文を学術雑誌に投稿したが、研究期間中の掲載には間に合わなかった。期間終了後も、成果発信に向けて注力を続けたい。

(3) 今後の展望

全体に、ベトナム、日本、フランスのそれぞれの市民社会と児童問題解決に向けた貢献について、明らかにできたことは大きな成果であった。しかし、それぞれの国が経験をどのように交換してグローバルな連帯につなげるかという問題については、いまだ研究途上である。

4年間の研究期間は、「計画立案、資料収集、フィールド調査、データ整理、学会発表、論文執筆、公刊発表」の全行程を貫徹するには、いかにも短い。いまだ整理、発表しきれていない知見やデータについては、今後も研究を続けて社会還元を行っていききたい。

幸いなことに、2014年度より別途、基盤研究(C)「原発震災と市民社会研究 - グローバルな連帯による子どもの保護を考える -」を受給して研究を実施中である。また、2015年度からは、基盤研究(B)「福島原発事故の教訓をベトナムへの原発輸出に活かす日越両政府への政策提言策定研究」(研究分担者)も始まった。両者とも本研究の延長線上に位置づけられるテーマであるため、本研究で得たデータを入れ込みながら、今後の研究活動を続けていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文等〕(計 3 件)

吉井美知子「ベトナムストリートチルドレン問題から日本の子ども虐待問題へ - 市民社会による問題解決の可能性を探る -」沖縄大学人文学部紀要、査読無(論文)、第17号、2015、pp.1-11

吉井美知子「フランスにおける子どもの保護の実態 - アソシアシオンの活動を中心に -」三重大学国際交流センター編『三重大学国際交流センター紀要』、査読無(調査報告)、Vol.8、2013、pp.137-160

吉井美知子「日本の子ども虐待問題をめぐる政府の対応と市民社会の可能性 - 大阪フィールド調査とその考察 -」三重大学国際交流センター編『三重大学国際交流センター紀

要』、査読無(研究ノート) Vol.7、2012、
pp.75-92

〔学会発表〕(計 7 件)

Yoshii, Michiko 2014 年 11 月 2 日:
*Government Attitude for Child Protection
in Vietnam - Comparative Analysis on Agent
Orange and Radiation -*, “Agent Orange
and the Politics of Poisons”
International Conference 2014, Okinawa
Christian University

Yoshii, Michiko 2014 年 9 月 16 日: *Social
Abuse of Children and the Role of Civil
Society Organizations in Japan - Case
Study of Fukushima -*, XXth IsPCAN
(International Congress on Child Abuse and
Neglect) in Nagoya, OS-4A : Children and
Disasters, Program Book p.62

Yoshii, Michiko 2013 年 8 月 12 日: Vai trò
của các tổ chức xã hội dân sự trong việc
chăm sóc và bảo vệ trẻ em ở Việt Nam - Hướng
cải cách và kinh nghiệm từ Nhật Bản -, (*The
Role of Civil Society Organizations in
Caring and Protecting Children in Vietnam
- Reform Tendency and Experiences from
Japan -*) Summer Seminar “Wither reforms
in Vietnam ?” at Singapore Management
University

Yoshii, Michiko 2012 年 11 月 27 日: Vai
trò của các tổ chức xã hội trong giải quyết
vấn đề trẻ em đường phố ở Thành phố Hồ Chí
Minh, (*The Role of Social Organizations in
Resolving Street Children Problem in Ho
Chi Minh City*), The Fourth International
Conference on Vietnamese Studies (Hanoi),
Abstracts p.59

Yoshii, Michiko 2012 年 3 月 18 日: Role of
civil society in resolving children
related problems - Comparison between
Vietnam and Japan, Association for Asian
Studies, Annual Conference 2012 (Toronto),
Panel 260, Conference Program, p.96

吉井美知子 2011 年 12 月 3 日: 「市民社会
は児童問題の解決にいかに関与できるか -
ベトナムのストリートチルドレン問題を事
例に - 」第 86 回東南アジア学会研究大会(東
京) 報告論文集 pp.11-12

吉井美知子 2011 年 12 月 3 日: 「ベトナム
のストリートチルドレン問題から日本の子
ども虐待問題へ - 市民社会による問題解決
の可能性を探る - 」日本子ども虐待防止学会
第 17 回学術集会いばらき大会(茨城)抄録
集 p.197

〔図書〕(計 1 件)

吉井美知子 他、晃洋書房、第 6 章「ベトナム
でストリートチルドレン問題に取り組む
NGO」、第 13 章「ベトナムの NGO と社会化」
秦辰也編『アジアの市民社会と NGO』2014、
273p.(pp.65-77, 199-217)

〔産業財産権〕なし

〔その他〕

(1) 新聞・雑誌記事

Yoshii, Michiko 2013, *Cuộc sống của
chúng tôi sau thảm họa Fukushima* (フクシ
マ事故後の私たちの生活) Tuổi Trẻ Cuối Tuần
(「若者」紙週末版) Online 10 月 9 日号
<http://tuoitre.vn/tuoi-tre-cuoi-tuan/cu-oc-song-muon-mau/572641/cuoc-song-cua-c-hung-toi-sau-tham-hoa-fukushima.html>

Yoshii, Michiko, 2013, *Cuộc sống của
chúng tôi sau thảm họa Fukushima (Our daily
life after Fukushima accident)*, Tuổi trẻ
cuối tuần (Week-end Youth), No. 38-2013
(1559) 6-10-2013, Ho Chi Minh City,
Vietnam.

吉井美知子、2013 「子どもの周辺：マザー
テレサの思い出」1 月 28 日付日本海新聞朝刊
p.12

吉井美知子、2012 「子どもの周辺：人の心
の幸せとは ベトナムのストリートチルド
レンと日本の子どもたち」4 月 27 日付日本
海新聞朝刊 12 面

(2) 講演

2015 年 1 月 31 日: 青葉奨学会沖縄委員会
主催、講演「ベトナムと私 - 反戦歌・ストリ
ートチルドレン・原発輸出」(那覇)

2014 年 9 月 6 日 PM: Dai Hoc Quoc Gia TP
HCM - Dai Hoc Kinh Te Luat (ホーチミン市
国家大学経済法律大学) 主催、講演 “*Diễm
xưa*” *Cuộc sống thiếu điện ở Việt Nam những
năm 1980* (「美しい昔」電気の足りない 1980
年代ベトナムの生活)

2014 年 9 月 6 日 AM: Dai Hoc Thu Dau Mot
(トゥーザウモット大学)(ベトナム、ビン
ズオン省) 主催、講演 “*Diễm xưa*” *Cuộc sống
thiếu điện ở Việt Nam những năm 1980* (「美
しい昔」電気の足りない 1980 年代ベトナム
の生活)

2014 年 2 月 27 日: Dai Hoc Mo TP HCM (ホ
ーチミン市開放大学) 主催、講演 “*Diễm xưa*”
*Cuộc sống thiếu điện ở Việt Nam những năm
1980* (「美しい昔」電気の足りない 1980 年代
ベトナムの生活)

2013年12月6日：中部学院大学人間福祉学部（岐阜）講演「ベトナムにおけるソーシャルワーク系NGO活動の実際 - ストリートチルドレン友の会（FFSC）の活動とその成果 - 」

2013年11月23日：国際ロータリー財団第2650地区学友会（京都）グローバルセミナー講演「ベトナムのストリートチルドレン」
2013年9月12日：Dai Hoc Khoa Hoc Xa Hoi Nhan Van TP HCM（ベトナム国立ホーチミン市人文社会科学大学）主催、講演 *Diêm xưa " Cuộc sống thiếu điện ở Việt Nam những năm 1980*（「美しい昔」電気の足りない1980年代ベトナムの生活）

2013年3月1日：Cross Cultural Exchange Association (CCEA), (Nagoya), Conference " Kyoto, Paris, Saigon, Rabat... and Tsu - My CV and Street Children in Vietnam - "
2012年11月17日：山王子どもセンター主催（大阪）講演「ベトナムのストリートチルドレン どんな子どもたち？ - 」

2012年5月15日：国際ソロプチミスト三重アイリス主催（三重）講演「ベトナムのストリートチルドレン どんな子どもたち？ - 」

2012年3月12日：Université Paris VII, Section Vietnamienne（フランス）講演《 Les enfants de la rue au Vietnam 》（パリ第7大学ベトナム語学科「ベトナムのストリートチルドレン」）

2011年7月18日：三重県内高等教育機関・三重県生涯学習センター主催、みえアカデミックセミナー2011（三重）「ベトナムのストリートチルドレンとNGO - 私たちにできること - 」

2011年5月28日：第77回津文化協会文化講演会、第37回文化講演会「？発見塾」（三重）「ベトナムのストリートチルドレン - どんな子どもたち？子どもたちからの贈り物」
2011年5月15日：パシイワ愛知支部総会（愛知）「ベトナムのストリートチルドレンとNGO - 私たちにできること - 」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉井 美知子 (YOSHII, Michiko)

沖縄大学・人文学部・教授

研究者番号：30535159

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし